

# まなび

VOL.  
92

## の 杜

東北大学総合情報誌

MANABI NO MORI

Theme

創立115周年  
総合大学100周年



[ Theme ]

# 創立115周年 総合大学100周年

社会に開かれた  
共創を推進し、  
発展していく使命を担う

東北大学は、1907年6月22日に設置の勅令が公布され、9月1日に「杜の都」仙台の地に創立して、今年で115周年を迎えました。

また今年は、1922年8月29日に人文社会系の法文学部が設置され、理学部、医学部、工学部を含めた「総合大学」としての歴史を刻み始めてから、100年という節目の年に当たります。

メモリアルイヤーを迎えた本学は、「成長する公共財」として、「社会の課題解決プラットフォーム」として、社会に開かれた共創を推進し、発展していく使命があります。「成長する公共財」へ向けた戦略的経営の一例としては、自己調達資金による青葉山新キャンパス整備事業が挙げられます。

農学研究科、環境科学研究科、災害科学国際研究所、国際集積エレクトロニクス研究開発センターなどが集積する同キャンパスでは、2024年度、次世代放射光施設「ナノテラス (Nano Terasu)」が運用開始予定で、同施設と連動してオープンイノベーション創出の仕組みづくりを展開するサイエンスパーク事業が開始されます。

そして、私たちは、この広大なキャンパスを世界に開かれた「社会の課題解決プラットフォーム」とすべく歩みを進めています。

本号では、「創立115周年 総合大学100周年」をテーマに、本学の多様で卓越した価値創造の営みの歴史や大学の今昔、活躍する学生たちの姿などに関する記事をお届けいたします。



|    |                                                                                                                                                   |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4  | 東北大学創立115周年 総合大学100周年記念 特別企画<br>特集 Special Feature   Chapter 1<br>「インタビュー」植木俊哉理事・副学長に聞く<br>東北大学の「総合知」が<br>切り拓く未来への扉<br>（創立115周年・総合大学100周年を基点に考える） |
| 6  | 特集 Special Feature   Chapter 2<br>総合大学としての未来と<br>これからの社会を見据えて<br>（文系学部の特長に聞く）                                                                     |
| 9  | 特集 Column Special Featured Column<br>社会とのエンゲージメント                                                                                                 |
| 10 | 特集 Special Feature   Chapter 3<br>知の伝統を次代へと継承する大学<br>（写真と数字で見る東北大学）                                                                               |
| 12 | Past Innovation 先人たちの発想法<br>東北大学人物事典 ⑤ 阿部 次郎                                                                                                      |
| 14 | Campus Environment まなびの環境<br>東北大学川内キャンパス<br>加藤 諭                                                                                                  |
| 18 | Topics - Creating Global Excellence<br>トピックス ● その先の卓越へ。                                                                                           |
| 19 | Student Activities<br>まなびの道<br>学生会漕艇部<br>全国七大学総合体育大会実行委員会<br>学生会応援団<br>学生会文化部準加盟団体「東北大学福興youth」<br>任意団体「Runio(ルニヲ)」                               |
| 22 | Information<br>まなびの杜から<br>東北大学校友会／東北大学基金／東北大学校友会                                                                                                  |



Tohoku University の頭文字(TU)をモチーフにし、地域に根差す形を圖案化したタイトルロゴ。社会とともにある東北大学の広報媒体として、新しい価値創出の姿をお届けしてまいります。

[Photographer]  
Masayoshi Harabuchi  
(Cover, p.4-5, p.14-17)  
Kazumi Abe  
(p.2-3)  
[Designer]  
Yukihiro Enomoto





「インタビュー」植木俊哉理事・副学長に聞く――

# 東北大学の「総合知」が切り拓く未来への扉 ～創立115周年・総合大学100周年を基点に考える～

東北大学が創立115周年、総合大学として100周年を迎える2022年。本学の歴史や「知」の伝統を振り返りつつ、年間を通して行われる記念事業、「総合知」がもたらすグローバルインパクトやこれからの本学の使命・役割について、植木俊哉理事・副学長（総務・財務・国際展開担当）にお話を伺いました。

## 来し方を道標に

東北大学は1907年に我が国三番目の帝国大学として創立され、1922年には法文学部が設置されて総合大学としての歩みが始まりました。私は理事・副学長として総務・財務・国際展開を担当しておりますが、このたびの東北大学115周年、総合大学100周年に際しまして、記念事業全体の実施責任者を務めています。

本学の歴史を振り返ってみると、社会の発展、あるいは社会や国、世界の目指す方向性、それぞれの歴史的、社会的文脈の中で、大学が発足し、発展して現在に至っていることを改めて痛感します。東京、京都に次いでここに帝国大学をつくるのか、それは当時非常に重要な決定だったでしょう。我々の先人たちは、この仙台に第三の総合大学をつく

ると決めました。それは当時の日本のリーダーによる判断だったと思いますが、同時にこの東北地方、宮城、仙台の熱意といえますか、この地から日本社会を

発展させ、ひいては日本が国際社会の中で伍していくための科学的、学術的な基盤を構築し、産業の育成や国土の均衡の取れた発展を目指すという、強い意思の表れだったのではないのでしょうか。

また、東北帝国大学創設の際には、当時政府の財政が厳しく、国家予算だけでは創設が難しいため、地元宮城県と古河家の支援を受けました。現在、大学には地域や企業との協力が求められますが、東北大学には発足時からこのような協力関係が存在していました。

今、大学改革が叫ばれ、グローバルな環境の中で大学がどういう方向に進んでいくべきかが議論されていますが、本学の生い立ちやその後の発展の軌跡を見つめ

直すことが、今後の道筋を見出し、いく際の重要な道標になると感じています。

## メモリアルイヤーの取組

本年はメモリアルイヤーということで、年間を通して様々な記念事業が進行中です。4月にはキックオフイベントとして片平キャンパス「サクラ」ライトアップ点

灯式・ミニコンサートを開催しました。

この企画は電力の供給源として日産プリンス宮城から電気自動車機材提供を受け、東北電力との包括連携のもとに実施し、グリーン未来社会の実現と2040年のカーボンニュートラル（※1）を目指す本学の姿勢を発信しました。

東北大学理事・副学長（総務・財務・国際展開担当）  
／大学院法学部・法学研究科教授  
**植木 俊哉** Ueki Toshiya

1986年10月東北大学法学部助教授。99年6月東北大学法学部教授（国際法担当）。2004年4月東北大学大学院法学研究科長・法学部長。06年11月東北大学理事。18年4月東北大学理事・副学長（総務・財務・国際展開担当）。







6月には東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）推進宣言記念シンポジウム、8月上旬には3日連続で「東北大学フォーラム2022」「仙台七夕花火祭2022」「東北大学懇談会」を行うプレミアム3DAYSを実施しました。

9月30日には「支倉サミット」を開催する計画です。本学の国際共同大学院のプログラムの一つである「日本学」は、「日本」という切り口でグローバルな問題を研究、分析することを通じて、新たな科学的、学問的な知見を見出し、それを社会に還元するという学問です。その「日本学」の国際ネットワークである「支倉リーグ」の参加大学の代表等を本学に招き、21世紀の現代における人文社会科学の国際的・学際的連携と社会貢献の方針を共有し、「支倉宣言」にまとめて国際的に発信する予定です。

さらに10月1日には東北大学創立115周年総合大学100周年記念式典、翌10月2日には第35回東北大学国際祭り×創立115周年・総合大学100

周年記念事業を実施します。

このほかにも今年は文学部創立100周年記念事業が行われますし、災害科学国際研究所も創立10周年記念式典を行うなど、各部署でも様々な取組や行事が計画されています。

## 学都で学ぶということ

本学は当初、理科大学として発足しましたが、初代総長の澤柳政太郎が科学的知識や理工系の知見に並んで、今でいうところの人文社会科学の知見が必要だと強調しておりました。そのため、文学部が正式に発足する以前から、当時の一流研究者を招き、それが法文学部の設置という形で結実したわけです。

仙台にはご承知のように旧制二高がありました。そして東北帝国大学が法文学部をいち早く設置しました。このことが阿部次郎『三太郎の日記』が広く読まれ、土井晩翠が教鞭を執るなど、仙台が人文アカデミズムの拠点となる時代を築くことにつながりました。この歴史が、現代に連なる本学の人文社会科学研究の重要な基盤となっています。

「学都」と呼ばれる仙台は、勉学と研究に専念するのに最もふさわしい環境を提供しています。今後もその重要性は変わりませんし、研究のDX化が進展した今日、この恵まれた環境の下で世界的水準の研究を行うことができます

期待できます。本学は国際的な学びの環境として、「ユニバーシティ・ハウス」の整備を行いました。これは留学生と日本人学生が生活空間を共有して過ごす施設で、留学生や外国人研究者の受け入れ促進のために必須のものです。東北大学は国立大学としていち早く、民間の資金なども活用するPFI※2方式で三条地区にこれを整備し、片平地区、青葉山新キャンパスにも開設しました。住居とキャンパスが近接しているので、勉学や研究に専念できる。これは東北大学の誇るべき環境です。

これからも外国人研究者向けの施設をさらに充実させ、留学生の受け入れサポートを一層強化するなど、グローバルな学びと研究の場としての東北大学をさらに整備していきたいと思っています。

## 研究でブレイクスルーを

海外でのプレゼンスという意味では、アカデミイのコミュニティや世界の専門分野の先生方からの東北大学の評価は非常に高いと実感しております。ただし「東北大学」自体のネームバリューは実態に追いついていない部分がまだあるように感じますので、そこは努力すべき大きな課題であると思っています。国内ではタイムズ・ハイアー・エデュケーション日本版の大学ランキングで、3年連続1位

（※3）という評価をいただきました。

これは特に東北大学の教育面での実績とグローバル化の取組が客観的に高く評価された結果だと考えています。このような成果を国際舞台でもう少し胸を張ってアピールしてまいりたいと思います。同時に、世界的にも研究成果を一層評価していただけるよう、努力を継続していく必要があります。

また、SDGsなど様々な地球規模課題への取組に関しては、紛争や政治的な対立といった地政学的な問題とは別に、国際的に協力してイノベーションを生み出す努力を重ねる必要があります。これらの課題に対して東北大学の持つ科学的な知見や研究成果、そして「総合知」を生かせる可能性は大きいはずで、東北大学での研究がブレイクスルーにつながり、22世紀に向けての人類の危機を克服できた——そのように世界に貢献できる大学でありたいと考えております。

※1 2040年のカーボンニュートラルに「東北大学グリーンゴールズ宣言」のもと、本学キャンパスの温室効果ガス排出量を2030年度までに13年度比50%削減、40年度までに実質ゼロを目指している（政府目標である50年度実質ゼロを10年前倒し）。

※2 PFI：Private Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法のこと。

※3 3年連続1位：イギリスの新聞社タイムズ（The Times）がTimes Higher Education（THE）で発表したTHE世界大学ランキング日本版のランキングにおいて、東北大学は2020年から国内総合順位1位を3年連続で獲得した。



# 総合大学としての未来とこれからの社会を見据えて ～文系学部へのトップに聞く～

本学は、1922年8月29日の勅令396号によって現在の文系4学部の礎となる法文学部が設置され、総合大学としてスタートしました。

100周年を迎えた今、これまでの本学の歩みを踏まえながら、文系学部は社会や次の100年に向け、どう進んでいくべきかについて、文系の4人の大学院研究科長・学部長にアンケート形式でコメントをいただきました。

## 求められる 人文情報学への取組

文学  
Arts and Letters



大学院文学研究科長・文学部長

柳原 敏昭 教授 YANAGIHARA Toshiki

1961年新潟県生まれ。90年東北大学大学院文学研究科博士後期課程を単位取得の上中退。博士（文学）。鹿児島大学講師・助教授を経て、97年東北大学文学部へ赴任。2010年文学研究科教授。20年4月より文学部長・文学研究科長。史料館長、附属図書館副館長も歴任。専門は日本中世史。

### 設問

- ① 総合大学100周年をどのように捉えていますか。
- ② 学部・研究科の強み、あるいは強化すべきところはどのような点でしょうか。
- ③ 所属学生の学生気質や学生生活の今昔についてどのように思いでしょうか。
- ④ 総合大学100周年を機に地域や社会とどう向き合っていくべきでしょうか。
- ⑤ 総合知のイメージ、文系学部の使命・役割、ビジョンをお聞かせください。

⑤ 文学部・文学研究科は、多様な分野の専門家を擁していますので、理系を含めた学内の様々な分野と連携した研究が可能です。加えて総合知がどうあるべきかを吟味するのも文系学部の役割だと思っています。

① 来し方を振り返り、将来を考えるよい機会だと捉えています。文学研究科では、全学行事である「支倉サミット」に協力したり、学部・研究科独自のイベントを行ったりすることで、学生や社会の方々とともに総合大学における学部・研究科の位置づけを考えていきたいと思っています。

② 東北大学は、附属図書館を中心に人文社会科学にかかわる優れた学術資源を多数有しています。ただ、十分に生かし切れていない憾みがあります。調査・研究を一層進めるとともに、人文情報学（デジタルヒューマニティーズ）（※1）に本格的に取り組むことで、世界の研究者に有益な学術情報を提供できると考えています。

③ かつてより真面目に授業に出席する学生が増えていると思います。一方で、主体的に学ぼうという姿勢が少々弱くなっているようにも感じます。大学の学生への「サービス」（国際交流の場合、留学制度e.t.c.）提供は格段に充実してきましたので、それらを積極的に活用することで、これまでは考えられもしなかった広い世界に飛び出していきけるのではないのでしょうか（コロナを度外視すれば）。

④ 人文社会科学が、地域や社会に「すぐに役立つ」学問であるとともに、「長い目で見て、じっくり成果が上がるのを待つ」学問、「いつかきつと役立つ」学問でもあることも理解していただけるようにしたいと思っています。

※1 人文情報学（デジタル・ヒューマニティーズ／Digital Humanities）：人文文学において広がり始めていくコンピュータを使ってテキスト（データ）を分析していく学際的研究分野のこと、人文文学の新たな価値創造を目的としています。デジタル人文学とも呼ばれています。この人文情報学において欠かせないのは古典籍等、過去の膨大な文献のデジタル化です。東北大学附属図書館や史料館が進める古典籍デジタル化もその一つです。このように、多様な資料がデジタルアーカイブ化され、インターネット等を通じて、保存・検索・共有が容易となったことから、人文学の研究手法に大きな変革がもたらされ、活発な研究活動が展開されています。



## ヒトを理解し、 ヒトを支える

教育学  
Education



大学院教育学研究科長・教育学部長  
野口 和人 教授 NOGUCHI Kanaho

東北大学大学院教育学研究科博士課程後期3年の課程修了。東北大学助手・宮城教育大学教育学部助教・同教授、同学長特別補佐を経て、2014年より東北大学大学院教育学研究科教授。東北大学評議員、東北大学大学院教育学研究科副研究科長、副学部長及び東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センター長を経て、22年度より現職。

①東北大学では、あるテーマについて部局を超えて知見を共有する取組が以前から自発的に行われてきたと思いますが（私自身、大学院生や助手の頃にそのような取組に参加させていただいていました）、それこそ今で言う「総合知」を志向したものであろうと思います。このような取組を実現しうる基盤となったのが総合大学としての東北大学の出発であらうと思われます。

②教育学部・教育学研究科においては、広く教育学、教育心理学に関わる諸領域とデータ・サイエンスやロボティクス、A

I等の領域を融合した研究組織体制ならびに教育体制を構築し、さらにグローバルな研究体制および教育体制の構築を進めているところであり、これらを踏まえた人材育成と研究の充実・発展を図っていきたくと考えています。

③私自身は学生時代、様々なテーマについて、また全くのプライベートでも、学内外を問わず様々な場で同期の仲間や先輩、後輩と語り合っていた記憶があります。今の学生の皆さんはどうなのでしょう。時間的にも空間的にも、またつながりの範囲にも制約なくやりとりができる状況となり、私が学生であった頃には想像もできなかった世界が広がっている中、今の学生の皆さんは何を見て、何を感じているのでしょうか。

④教育という営みは、学校の場にとどまらず、空間的にも時間的にも広大な広がりをもち、一人のヒトが生まれて以降、その生涯を通じて様々な形で関わっていくものです。このような営みにおける様々な課題の解決に取り組み、その成果を還元していこうとする本学部・研究科は、そもそも地域や社会との結びつきが強いと思われます。今後はさらに、地域の方々に自分たちの大学と感じてもらえるような取組を進めていきたいと考えます。

⑤教育学部・教育学研究科が取り組んでいる「ヒトを理解し、ヒトを支える」というテーマは、本来、多面的・多角

的なアプローチに基づく知見の総合によつて迫りうるものであると考えます。そうして得られた「知」は、本学の掲げる「実学尊重」の精神を体现するものであり、他の様々なテーマと関わりながら更なる「知」を生み出していくものであろうと思われます。そのような「知」の生産プロセスの二翼を担っていくことが私たちの使命・役割であらうと考えます。

## 一度立ち止まって 省察する好機に

法学  
Law



大学院法学研究科長・法学部長  
戸澤 英典 教授 TOZAWA Hidenori

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。エッセン総合大学留学、EU代表部専門調査員、大阪大学法学部講師、助教授を経て2005年4月に東北大学助教授、10年7月に教授昇進。14年から16年まで公共政策大学院長。22年4月より現職。

①「国際卓越研究大学」(※2)の公募を控え、産学連携や寄付などで年3%

の事業成長が求められる状況となっており、周年事業を契機に東北大学基金の強化や海外同窓生との連携強化を図ろうという全学の方針には基本的な賛同しています。また、コロナ禍で止まっていた法学部同窓会の各支部での会合再開など、再活性化の契機ともしています。ともあれ、日本の大学のあり方が岐路に差し掛かっている中、一度立ち止まって省察する好機としたところです。

②東北大学法学部は、全国的に見てもユニークな自由選択制をとっており、法律科目をほとんどとらなくとも卒業することが可能となっています。これは、学生の興味に応じた履修を可能とし、実際、法曹界・官界のみならず、幅広い分野で卒業生が活躍している土台であると思います。また、若手研究者が最先端の研究成果を演習(ゼミ)を中心に教育の場に還元するという伝統も大切にしていきたいものです。

③トーパー生が地味だが堅実である良さを持っていることは昔も今も変わらないのではないかと。もともと、AOⅡ期や国際コースの設置などにより、個性的な学生も増えているように感じますが、社会問題に真剣に取り組む法学部生が多いことは、無料法律相談所や模擬裁判実行委員会など、自主ゼミに加入する学生の比率の高さにもあらわれています。コロナ禍における学生間の交流にあたっては自主ゼミにぜひぶん助けられました。



④ 法学部はこれまでも、法曹界や官界を中心に人材を輩出することで地域や社会を支えてきました。加えて、既に開設20年近くになる法科大学院／公共政策大学院という専門職大学院では、実務家との協働を通して社会問題の解決に直接関わっています。そうした点に周年事業だからといって変化があるわけではありませんが、とりあえず同窓会各支部での会合は盛大に再開して、今後の連携強化を図っていく契機とします。

⑤ AI／ビッグデータ時代を迎え、従来の仕事のやり方や組織運営、研究教育のあり方に至るまで、再検討が迫られています。「国際卓越研究大学」のようなスキームは、人文社会系の研究科・学部には必ずしも相応しくない点も多々あるとも感じますし、文系学部への風当たりも強まっています。そうした中で、理系学部の強い東北大学の文系学部として、どのような「総合知」を目指していくのか、いろいろ試行錯誤中です。

※2 国際卓越研究大学・イノベーション(技術や社会の革新)の駆動力となる世界トップレベルの研究力を目指す大学に、10兆円規模の大学ファンド運用益(年間3000億円を目標)から集中的に助成を行う国の新しい支援制度。2022年5月18日、参議院本会議において「国際卓越研究大学の研究および研究成果の活用のための体制の強化に関する法律案」が可決、成立したことにより、今後、支援を希望する大学からの申請を文部科学省や総合科学技術イノベーション会議(CSTI)で検討し、23年度までに対象校が決定する予定です。

## 「知」はつねに「総合的」なものです

経済学  
Economics



大学院経済学研究科長・経済学部長

小田中 直樹 教授 Ohtani Naoki

1986年東京大学経済学部卒業。91年東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程単位取得退学。95年博士(経済学、東京大学)。91年東京大学社会科学研究所助手。94年東北大学経済学部(99年から大学院経済学研究科)助教授。2005年東北大学大学院経済学研究科教授。

① 東北大学に法文学部が設置され、ここに経済学講座が置かれてから1世紀となります。経済学部として独立するのは1949年ですが、それ以前の時期にも、日本の経済学界をけん引した宇野弘蔵(※3)や安井琢磨(※4)といった碩学が在籍していたことを考えると、東北大学における経済学の研究教育にとって本年は一つのマイルストーンであると感じています。

② すぐれた日本人学生と、世界各国からやってくる留学生が、切磋琢磨しながら学ぶ姿は、経済学部・経済学研究科

の教育の強みを表しています。研究面では、データ科学・数理マルクス主義経済学・ポストケインズ派経済学などは、国内トップクラスの水準にあります。今後は、「グローバルマインド、データ分析力、挑戦心(チャレンジング・スピリット)」の3点を重点とする研究教育戦略を進めてゆく予定です。

③ 大学の立地を反映してか、とにかくまじめな学生が多いと感じています。先述した「グローバル・マインド、データ分析力、挑戦心」の涵養には少々の「遊び」が必要であり、この「遊び」の時間やチャンスを提供することが教職員の役目だと感じています。

④ 経済学部・経済学研究科では、すでに2005年に地域イノベーション研究センターを設置し、あるいは本年10月に本格始動するデータ科学オンラインスクールの中核を担うなど、地域人材のリカレント教育を進めてきました。また、出前授業や学術アドバイザーの派遣など地元高等学校との連携も強化しつつあります。ある意味で「縮小社会」の先進地域である東北地方に位置する大学として、あるべき「縮小社会」の姿を地域とともに考えていくことは本学のミッションであると考えています。

⑤ 「総合知」は、最近になって文部科学省がひねり出した造語にすぎません。「知」はつねに「総合」的なものです。また「文系」「理系」というくくりはジャ

パン・オリジナルであり、しかも、データ科学・情報学、環境学、あるいは脳科学・認知科学などを例に挙げるまでもなく、時代遅れです。経済学部・経済学研究科についていえば、「グローバル・マインド、データ分析力、挑戦心」をキーワードとする研究教育戦略を進めていく予定ですが、その目的は「経済」の語源である「経世済民」すなわち「世を治め、民を救う」方策を総合的に探求することにある点に変わりはありません。

※3 宇野弘蔵(1897-1977)日本の代表的マルクス経済学者。岡山県生まれ。1921年東京帝国大学経済学部卒業。24年東北帝国大学法文学部助教授となり経済政策論を担当。47年東京大学社会科学研究所教授となり、いわゆる「宇野理論」と呼ばれる独自の経済学方法論を樹立。イデオロギーと社会科学を明確に区別するという視点から、日本のマルクス経済学界に大きな影響を与えました。

※4 安井琢磨(1909-1995)理論経済学者。大阪市生まれ。1931年東京帝国大学経済学部卒業後、同大助手として河合栄治郎に師事。早くから近代経済理論に関心を向け、第2次世界大戦後の日本の近代経済学隆盛の理論的基礎を構築。39年同大助教授。44年東北帝国大学法文学部教授に以後、大阪大学教授、国際基督教大学教授などを歴任。経済理論の最先端で第一級の活躍を続けました。

# 社会とのエンゲージメント

## 「社会とともにある大学」という原点

東北大学はその創立・黎明期から、自治体や企業、民間団体などの支援を得て、教育研究活動を行ってきました。いわば社会によって支えられてきた大学です。「社会とともにある大学」という原点を軸に、本学のエンゲージメントのDNAをピックアップして紹介します。

1907年

### 東北帝国大学の誕生

1907年6月、日本で3番目の帝国大学として、東北帝国大学(現東北大学)が創立されました。本学の創立は、先行する東京帝国大学、京都帝国大学とは異なり、自治体や企業の後押しと寄附によって実現したものでした。当時、政府の財政難により、国費のみで東北に帝国大学を作ることができない状況にありましたが、宮城県が寄附を申し出、古河家(現古河機械金属株式会社)がさらに大きな寄附を申し出たことにより、大学の創設が決定。1911年9月、仙台に東北帝国大学理科大学が開設されました。本学はその誕生の時から「社会とともにある大学」として歩むことが運命付けられていたといえます。



理科大学の講堂・本館遠景

1915年

### 臨時理化学研究所の設置

第一次世界大戦下、日本は外国からの物資の輸入が極度に制限され、化学薬品や鉄鋼の自給の必要に迫られていました。こうした中、1915年8月、医薬品製造企業・三共(現第一三株式会社)の寄附により、東北帝国大学理科大学内に臨時理化学研究所が設置され、不燃性セルロイドの研究を目的とする第1部が発足しました。翌年4月に、鉄鋼の研究を目的とする第2部が本多光太郎博士を研究主任として発足し、同年KS磁石鋼を発明しています。このことが、以来100年以上にわたり、わが国における金属研究や材料科学のメッカとして数多くの業績をあげ、優れた人材を世に送り出す先駆けとなりました。



臨時理化学研究所第1部全景

1919年

### 附属鉄鋼研究所の設置

1919年5月、東北帝国大学に附属鉄鋼研究所が設置されました。本多光太郎博士らの要望により臨時理化学研究所第2部を発展させて作られたこの研究所は、住友吉左衛門からの寄附をもって設置が決定し、その後も民間の寄附を受け入れて運営されました。この研究所は、3年後の1922年8月、金属材料研究所へと発展改組されます。1987年5月、同研究所は材料科学の飛躍的な進歩と新素材産業の急激な発展に対応するため、東北大学附置全国共同利用型研究所として再発足。今や共同研究の門戸は、国内のみならず、国外にも開かれ、国際的な研究交流が実施されています。



附属鉄鋼研究所(のちの金属材料研究所)

1923年

### 斎藤報恩会の発足と助成

1923年2月、宮城県の資産家・第9代斎藤善右衛門有成が、300万円の巨費を基金として研究助成に重点を置いた財団法人斎藤報恩会を設立。東北帝国大学は同財団から多くの寄附を受け、学術研究を進展させていきました。そして「八木・宇田アンテナ」や「分割陽極マグネトロン」などが生み出されます。これらの成果により、1935年9月、東北帝国大学に電気通信研究所が設置されました。附属図書館も斎藤報恩会の資金助成を受け、『ヴェント文庫』『デルゲ版西藏大蔵経』などの貴重なコレクションを購入・収集していきました。斎藤報恩会は文系理系を問わず、広く学術研究を支援する姿勢を貫いていました。



斎藤報恩会会館

## 本学の三つの理念

東北大学は創立以来、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」という三つの理念を掲げ、社会を先導する人材の育成と新たな社会価値の創造に取り組んでいます。

1

### 研究第一

初代総長・澤柳政太郎が最初の入学式で「我東北大学はこの点(研究)に於いては(世界の)何れの大学にも退けを取らざる覚悟なり」と述べたことが源流となっています。本学は研究大学と自ら規定したわが国で最初の大学なのです。また、世界に認められる卓越した研究成果があつてはじめて、本学が提供する教育が社会からの信頼を集めるという意味でもあります。このように「研究第一」は、独創的な研究成果を通じて未来を拓く優れた人材を育成することを標榜しています。

2

### 門戸開放

今日の言葉でいえばダイバーシティの尊重で、出身校や性別、国籍等にとらわれず、幅広く優秀な人材を受け入れてきた本学ならではの理念です。創立当初から、旧制高校以外の出身者にも広くその門戸を開き、1913年には、わが国の大学として初めて女子学生3人の入学を認めたことで、日本初の「女子大学生」がこの東北大学で誕生しました。本年4月には「DEI推進宣言」を発出するなど「社会とともにある大学」として、「門戸開放」の理念をさらに追求しています。

3

### 実学尊重

新たな社会価値の創造の基盤となる理念です。自然災害やパンデミックなどの予測困難な事象への対処、カーボンニュートラルや人口問題、さらには地政学的な変化など、人類社会の課題解決のためには、総合知に基づいた「実学尊重」が求められています。総合知とは最新の科学や技術とともに人文社会科学の知を駆使し、多様なステークホルダーとともに未来価値を共創する大学の力のことです。本学は総合知に基づいた「実学尊重」の理念の実現を目指しています。



# 知の伝統を 次代へと継承する大学 〜写真と数字で見る東北大学〜

東北大学は、現在、10の学部と15の大学院研究科、三つの専門職大学院、六つの附置研究所と病院、附属図書館のほか、教育研究に携わる多くの機構やセンターを擁する。世界有数の総合研究大学として発展を遂げてきました。創立115年、総合大学100年の歩みを写真で振り返るとともに、本学の今日の姿を象徴する数字を併せて紹介します。

1911年



1911年、東北帝国大学理科大学が開校。写真は片平キャンパスに建てられた理科大学本館。大学本部としても使われていたため、正面玄関の上には総長室や会議室がありました。建物は45年の仙台空襲で焼失。

1912年



1912年頃の東北帝国大学附属工学専門部正門。のちに1919年の工学部設置に伴い工学部本館として使用。現在の多元物質科学研究所素材工学研究棟付近。

1913年



1913年8月21日、東北帝国大学は3人の女性入学試験合格を発表(官報告示)。このとき入学した黒田チカ、牧田らく、丹下ウメが、日本最初的女子大生となり、2020年には「女子大生の日」として登録されました。写真:「三女史大学に入る」と報じる当時の東京朝日新聞(1913年8月16日)

1913年



1913年頃撮影された医学専門部六号教室。1904年竣工後、改修・移築を経ながらも現存し、建設当時、中国の文豪・魯迅が学んだ場所であることから、「魯迅の階段教室」として知られています。

1922年



1922年8月、勅令第396号により東北帝国大学に幅広い教養教育を目指し法文学部が設置され、総合大学としてスタート。写真は大正末から昭和初期に撮影された片平キャンパスの法文学部正門。

1907年



写真は東北帝国大学設置が決まった1907年頃の第二高等学校片平校舎正門。当時、第三臨時教員養成所、仙台医学専門学校が同じ敷地内に同居していました。

1910年



1910年9月、ヨーロッパ留学中の理科大学初代教授候補者たちが、打ち合わせのためバリエに集合しました。

THE世界大学ランキング  
日本版2022  
(国内総合順位3年連続1位!)

イギリスの新聞社タイムズ(The Times)がTimes Higher Education (THE)で2022年3月24日に発表した世界大学ランキング。

THEインパクトランキング  
2022 SDGsランキング 国内3位

Times Higher Education (THE) が2022年4月28日に発表。

高被引用論文数  
ランキング 国内5位

クラリベイト(Clarivate)が2022年4月に発表した高被引用論文数の分析による日本の研究機関ランキング。

学生総数…17,591人  
留学生数…2,074人  
学部数…10  
大学院数…15  
専門職大学院数…3  
附置研究所数…6

2022年5月1日現在

創発的研究支援事業採択  
(2020年度) 全国1位  
(27件)  
国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が2021年2月に発表。破壊的イノベーションにつながるシーズ創出が狙い。

2023年版QS  
世界大学ランキング 国内5位  
(世界79位)  
イギリスの世界的な高等教育評価機関であるQuacquarelli Symonds (QS)が、2022年6月9日に発表。  
高校からの評価ランキング  
(入学後、生徒を伸ばしてくれる)  
大学ランキング2023年版  
『大学ランキング2023年版』  
(AERAマック/2022年4月30日発行)で発表。

数字で見る  
東北大学  
本学の教育研究力や規模などの実態を象徴する最新の数字を幾つかピックアップしてお示しします。

2012年



2012年、東北大学災害復興新生研究機構を設置し、災害科学国際研究や未来型医療構築の推進など、八つのプロジェクトと復興アクション100+の活動・支援を推進しています。写真は2014年9月に竣工した災害科学国際研究所棟（青葉山新キャンパス）。

2017年



2017年6月、東京大学、京都大学とともに、文部科学大臣から指定国立大学法人に指定されました。世界最高水準の教育研究活動の展開ができる実力と潜在能力を認められた国立大学として、さらに発展が求められています。

2022年



2022年3月、本学は福島県と包括連携協定を締結しました。この協定は、東日本大震災からの復興と地域活性化の更なる加速化へ寄与することを目的としています。

2022年



2022年6月、青葉山新キャンパス内に建設中の次世代放射光施設について、量子科学技術研究開発機構と光科学イノベーションセンターは、同施設の愛称を公募により「NanoTerasu（ナノテラス）」と命名したことを発表しました。同施設は2024年度運用開始予定です。

2022年



2022年、東北大学創立115周年のロゴマーク。

1998年



1998年11月29日、片平キャンパスを訪問し「魯迅の階段教室」を見学した江沢民中国国家主席（中央）。

2002年



2002年12月、田中耕一さん（島津製作所・東北大学工学部電気工学科卒）へノーベル化学賞が授与されました。企業エンジニアである田中さんの栄誉は、多くの人々が勇気づけられ励みになるニュースとして注目を集めました。

2005年



2005年3月、創立100周年を機に、ブランド力強化を目指し「萩」をモチーフとした公式ロゴマークを発表。

2007年



2007年に創立100周年を迎えました。これまでの歩みを振り返り、次の100年への発展の契機とするため、記念式典のほか様々な記念事業が実施されました。写真は8月に開催された100周年記念市民コンサートの様子。

2012年



2012年2月、未来型医療を築いて震災復興に取り組む東北メディカル・メガバンク機構を発足させました。新しい医療の創出を通じ、東北地区への医療人の求心力向上、産学連携促進、雇用創出、医療復興を目指しています。

1960年



1960年10月に開館した東北大学記念講堂（川内記念講堂）及び松下会館。2007年、創立100周年を機に全面改装し、2棟を一体的施設とみなして「東北大学百周年記念会館」（川内萩ホール）に名称変更しました。

1966年



青葉山キャンパス造成風景（1966年／化学系学科付近）。

1969年



1969年11月23日、宮城県警察機動隊が東北大学構内に出勤、封鎖されていた教養部理科実験棟（写真）など5つの建物全部の封鎖を解除しました。

1970年



1970年の大学祭の立て看板（川内キャンパス）。

1989年



1989年2月23日、校友会応援団による受験生応援風景（仙台駅前）。

1992年



1992年4月8日、1970年以来22年ぶりに行われた入学式（仙台市体育館）。

1922年



1922年12月、アインシュタインが来校し、東北帝国大学理科大学教授陣と記念撮影（写真左から本多光太郎、アインシュタイン、愛知敬一、日下部四郎太）。

1926年



八木宇田アンテナは1926年に工学部の八木秀次・宇田新太郎両氏が発表し、その後世界的に普及しました。写真は1929年に仙台・大鷹森間20キロの通信に成功した受信機。

1936年



1936年頃の法文学部の女子学生。当時の中村善太郎学部長は女子学生の集団に「芝蘭会」と命名し、女子学生室を設置するなど女子学生が学びやすい環境の整備に尽力しました。

1937年



1937年5月、量子力学の確立に貢献したニールス・ボーア博士が本学来訪。前列右から2人目はかつてボーアの研究所で学んだ金属材料研究所の青山新一で、左隣のボーア博士と夫人を挟んで本多光太郎が写っています。

1957年



1957年6月22日、創立50周年記念式典が行われた片平キャンパス北門前の風景。



# 先人たちの 発想法

東北大学人物事典 ⑤

【阿部次郎】

## 日本学および比較文学 比較文化研究の源流

— 知られざる阿部次郎

文・長谷川 公一（東北大学名誉教授、尚絅学院大学特任教授）



阿部 次郎 ABE Jiro

1883年山形県酒田市生まれ。旧制一高、東京帝国大学文科大学哲学科を卒業。小宮豊隆や安倍能成らとともに、夏目漱石門下の1人として活躍。内省と煩悶の記録『三太郎の日記』（1914年）は1970年代初頭まで、長く青春の必読書とされていた。欧州遊学を経て、1923年、東北帝国大学教授に就任。法文学部創設期の立役者だった。帝国学士院会員。仙台市名誉市民。1959年逝去。『阿部次郎全集』全17巻がある。

阿部次郎は帝国大学時代の東北大学の文科系教授陣の中でもっとも卓越した一人です。国語学の山田孝雄（文化勲章受章者）の招聘をはじめ、初代教授陣の人選にも力を発揮しました（大平千枝子『父阿部次郎』（1999年）参照）。人格主義を文字どおり体現し、軍国主義が強まる時代の中でもリベラルな姿勢を貫きとおし、多くの学生に慕われました（原田夏子・原田隆吉『回想東北帝国大学』（2007年）参照）。全17巻の全集が編まれているように、阿部の仕事は、文芸時評からゲーテ研究に至るまで多岐にわたります。啓蒙的な文章もたくさん発表しています。

著名な『三太郎の日記』（1914年）や『人格主義』（1922年）はいずれも1923年に美学の初代教授として東北帝国大学に着任する以前の仕事です。東北帝国大学教授としての阿部は、どんな問題意識を持ち、どんな仕事を成し遂げたのでしょうか。31歳で発表したエッセー『三太郎の日記』の著者としての令名の大きさには、実は阿部自身も大いに不満を抱いていました。法文学部創設から100周年を機に、阿部の実像を探ってみましょう。阿部は、日本文化を世界文化の中で捉えようとした総合的な知的巨人であり、日本学および比較文学、比較文化研究の源流というべき存在だったのです。

## 比較文化という視点

東北帝国大学教授としての阿部次郎の仕事の中で今日なお注目されるのは『徳川時代の芸術と社会』（1931年）です。第二次世界大戦後江戸文化研究は次第に盛んになり、今日では江戸学は日本学のもっとも中心的な柱ですが、

戦前は在野の研究者による好事家的な関心が目立ち、学術的・方法的な意識は弱かったと言えます。

東北帝国大学への着任にあたって、当時の慣習で、39歳の阿部は1922年5月から23年10月まで、1年5ヶ月、ドイツ・フランスなどヨーロッパを遊学します。帰国の船便に乗り込む直前に阿部

は、関東大震災発災の大惨事の報に接しています。このヨーロッパ遊学と東北帝国大学への着任が大きな転機となりました。

「一千九百二十三年の秋、一年半の外遊を終えて帰国の途につくとき、私の心は『日本をいかにすべきか』という大きな問題を背負って来た」（『徳川時代の芸

術と社会』の自序の二節です（引用は新字体、現代かなづかいに改めた。以下同）。1923年は大正12年、明治維新から55年、日本社会の大きな転換点でもありました。

師の夏目漱石や正岡子規は、維新の前年1867年の生まれです。1883年生まれのア部は、16年遅れています。

同郷の歌人齋藤茂吉は1歳年長でした。

阿部は青年時代から義太夫や歌舞伎、浮世絵を愛好していました。また1920年から、小宮豊隆らと芭蕉研究会を始めました。ダンテやゲーテなどの洋学研究と愛好する江戸文化のはざまに阿部の知的生活はあったのです。

帰国目前の1923年7月、ルブル美術館の1室で、阿部は歌麿や写楽の魅力を再発見します。

「客遊既に一年半、故国の趣味と生活とに対する郷愁を胸の奥に持っている私に取つては、その微妙な色彩、その簡素な描線、そのほのかな気分、ほとんど一種の救として働きかけて来た。ここには色と線とに対する無量なデリケートな官能がある。ここには、日常生活の些事の中にも滲透して、戯れながらその味を吸い取りその美を掬い上げることの出来る芸術家のところがある」『徳川時代の芸術と社会』十九頁（全集第八巻）。

しかしその一方で、ドガなどの印象派との対比の中で、阿部は反問します。歌麿や写楽は、「この素質と官能とをいかなる自覚と意志とを持って率いているか」(傍点は原文、前掲十九頁)と。結局、自分の仕事の意義に対する積極的な「自覚」のない「日陰の芸術」ではなかったか。

歌麿や写楽の後継者の作品では卑俗性が増大し、エビゴネンの時代となつてしまったのではないかと、人格主義の観点

から阿部は歎いています。その結論は、

「徳川時代の平民芸術は、現代の民衆芸術を基礎付けすべき権利と実力とを全然欠如している。むしろ徳川時代の民衆芸術を、その根本精神においては、全然排斥せよ。ただその中から永遠に値するもののみを、精選してしかして保存せよ」(傍点は原文、前掲四六二頁)という苦衷に充ちたものでした。一面的な礼賛者ではなく、徳川時代の民衆芸術の限界に自覚的だったのです。歌舞伎などの演劇や義太夫などの音曲も、井原西鶴などの文学も同様の限界を持つていたと評価しています。

## 芭蕉俳諧研究会

東北帝国大学時代の阿部の仕事として興味深いのは、小宮豊隆らと1926年から仙台で再開・継続した芭蕉俳諧研究会です。山田孝雄、土居光知、村岡典嗣、岡崎義恵、小牧健夫という法文学部の錚錚たる教授陣とともに、医学部教授だった太田正雄(詩人の木下杢太郎)が参加していました。漱石門下の阿部・小宮と、森鷗外の弟子でもある木下杢太郎らが、「猿蓑」をはじめとする芭蕉の俳諧七部集などを読み合いました(大平千枝子『父阿部次郎』参照)。会の様子は、『思想』や『文学』(ともに岩波書店刊)などに掲載されるとともに、『芭蕉俳諧研究』などとして刊

行されました。

阿部が依頼した、この会の筆記役が当時英文学専攻の学生だった島田謹二でした。島田は、戦後、東京大学の駒場キャンパスに新設された比較文学比較文化専修課程の初代主任教授となり、芳賀徹、平川祐弘、小堀桂一郎、亀井俊介らの俊秀を育てました。

「比較文学は文学研究の新しい多望な分野である」という書き出しで始まる「比較文学序説」は1932年が初出です(全集第九巻)。万葉集を世界文学の中に位置付けるといふ先駆的な論文「世界文学と『万葉集』」は、1933年に発表されています。

阿部は、日本学の源流であるとともに、日本における比較文学、比較文化研究の源流とも言える位置にあるのです。

## 日本文化研究所へ

1923年、欧州からの帰途に抱いた「日本をいかにすべきか」という前述の問題意識は、敗戦を経て、日本をどう再建すべきかという問いとなり、日本文化史研究の構想は、1954年6月私設阿部日本文化研究所の開設という形をとって具体化しました。残念ながら、阿部の健康上の問題のために、この研究所は期待したような成果をあげるに至りませんでした。その系譜は、東北大学文学部附属日本文化研究施

設に引き継がれ、今日の東北大学大学院文学研究科日本学専攻へと継承されています。

京都に国際日本文化研究センターが作られるのは1987年ですが、阿部は、そのような学際的、総合的な日本研究の必要性和意義を、敗戦直後の1945年時点で構想していました。

今日の日本学の隆盛を、彼岸から阿部はどのように見つめているでしょうか。阿部が提起した日本文化を育み、発掘・再評価し、いかに発信していくべきかという課題は、なお終わりのなき問いとして私たちに開かれています。



写真は阿部次郎記念館2階展示室。

阿部日本文化研究所は、現在、阿部次郎の直筆原稿、日記や書簡、夏目漱石や山田孝雄らとの交流に関する資料などを展示する阿部次郎記念館となつています。なお、2022年10月15日には、本学文学部創立百周年記念事業の一環として、阿部次郎にちなんだ記念講演や関連シンポジウムなどが予定されています。



## 東北大学 川内キャンパス

# 重層的な 歴史を有する 川内キャンパス

歴史学者、  
東北大学学術資源研究公開センター史料館准教授  
**加藤 諭** KATO Satoshi

1978年生まれ。東北大学文学部卒業、同大学院博士課程単位取得退学。東京大学文書館特任助教を経て、現職。国の公文書管理法が定める大学アーカイブズにおいて、複数館での教務経験を有する研究者として、大学・企業・社会の記録管理と歴史学を組み合わせた研究を進めている。主な著書に『古い——人文学・ケアの現場・老年学』（編著、ポラノ出版）、「戦前期日本における百貨店」（清文堂）、「大学アーカイブズの成立と展開——公文書管理と国立大学」（吉川弘文館）、「帝国大学における研究者の知的基盤——東北帝国大学を中心として」（編著、ふし書房など）。

全学教育の中心であり、文系部局などが立地している川内キャンパスは、近世においては、仙台城二の丸、近代に入っ  
てからは第二師団の演習用地、第二次世界大戦後はアメリカ軍のキャンプ地と様々な変遷を経てきた歴史を有する地区です。

現在の川内キャンパスの成り立ちは、1957年にアメリカ軍のキャンプ地が返還されたことに遡ります。東北大学は第二次世界大戦後、帝国大学から新制大学になる過程で、官立学校を複数合併したことで、仙台市内各所に敷地建物が分散していました。また創設以来のキャンパスである片平は、将来的な大学の発展において敷地の狭隘化が課題となっていました。これらの解決策の一つが、川内キャンパスの取得だったのです。

川内地区全体については、宮城県、仙台市、東北大学三者の協議が続けられ、仙台城の城壁・大手門の周辺部分5700坪を市民公園として仙台市が管理

し、残り部分を東北大学が管理することを軸として、交渉が進められました。1958年には、管理区域には境界のための柵等を設けず、整備に当たっては史蹟の保存に十分留意することなどからなる、仙台市と東北大学の覚書が作成され、仙台城二の丸跡地の利用の目処が立つことになりました。

川内キャンパスへの移転計画は、1958年に仙台市内富沢と北七番丁に所在した二つの分校（教養課程）の移転と、青葉山植物園の整備がまず進められ、1973年の文系四学部に移転および附属図書館の全面開館をもって完了することになります。移転開始の当初は、アメリカ軍が川内キャンパスで使用していた建物が引き続き利用されることとなりました。川内キャンパス移転直後に作成された『川内のしおり』では「白さが群れおちた白のよう」と形容され、学生等からは「カマボコ」と呼ばれたような、白い木造の建物群がキャンパスを象徴する景観を形成することになります。その情景は、本学卒業生の小田和正さんによる校友歌「緑の丘」の歌詞にも、「目に浮かぶは 忘れ得ぬ 立ち並ぶ 白い教室」と歌われています。またアメリカ軍のキャンプ地であった際、劇場、教会のチャペル、将校クラブとして位置づけられていた建物も、それぞれ講堂、大講義室、川内会館などに転用されました。移転後、川内キャンパスに新設された



1960年頃の川内キャンパス

川内キャンパスは1958年から1・2年生が学ぶ教養部キャンパスとして使われ始めたのですが、当初、米軍キャンプ時代の施設をそのまま転用していました。写真右奥に教養部大講義室（チャペル）、左奥には建設中の川内記念講堂が見えます。

本格的建物としては、1960年に落成した川内記念講堂があげられます。これは、東北大学50周年の記念事業として建設されたものです。また同時期に松下幸之助松下電器産業会長からの寄附を受け、会議室機能を有する松下会館も隣設されることとなりました。これらはその後、2007年の東北大学100周年の際に、東北大学百周年記念会館（川内萩ホール）として改修、世界最高水準の音響と学術会議機能を備えたホールとして、様々なコンサート、国際会議、式典等が開催される空間として、川内キャンパスを象徴する建物の一つとなっています。







## ① 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

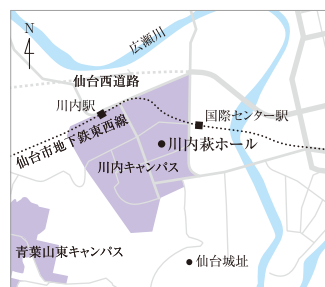
東北大学川内南キャンパス(仙台北二の丸跡地)に位置する川内萩ホールは、本学創立50周年を記念し、1960年10月30日に「東北大学記念講堂(通称:川内記念講堂)及び松下会館」として開館したのが前身です。5階建ての記念講堂と2階建ての松下会館からなる施設でしたが、2007年の大学創立100周年の際に、記念事業の一環として、2棟を一体的に改修。「東北大学百周年記念会館 川内萩ホール」の名称で、装いを新たに現在姿になりました。改修に際しては、それまでのデザインを可能な限り継承しつつ、その意匠設計から、構造・環境・音響設計に至るまで、全面的な刷新を図りました。また、既存躯体を活用しながら、外部に耐震補強が見えないような位置での壁体補強が施されています。川内萩ホールは、広く市民の皆様にも開放しています。東北大学にとっては、文化の創造と交流の拠点であり、地域との絆を深めるためのシンボルでもあります。2016年にはこうした取組が評価されて第15回公共建築賞(優秀賞)を受賞しました。

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内40

●TEL 022-795-3391

●FAX 022-795-3390

●公式ウェブサイト <https://www.bureau.tohoku.ac.jp/hagihall/>



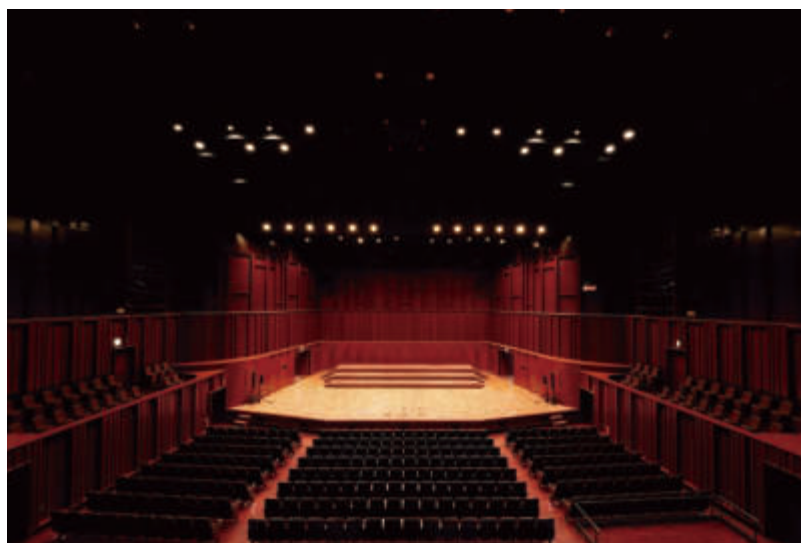
## 川内萩ホールに併設されているカフェ

デザイナーズチェアとアンティーク家具が調和する、くつろぎの空間。窓からは四季折々の木々の美しさを楽しめます。コーヒー、紅茶、ソフトドリンク、ケーキやスコーンなどのスイーツ、ランチタイムにはパスタなどの軽食メニューもあり。

カフェ モーツァルト クレーズコーヒー  
Café Mozart Klee's coffee

●休業日 火曜日、本学創立記念日(6月22日)、年末年始(12月29日～1月3日)など(祝日は営業する場合があります)。  
※詳しい営業日や営業時間などはカフェへ直接お問い合わせください。

●TEL 022-265-3022(カフェ直通)



## 川内萩ホールの内部

室形状から全面的に見直すという他に類例を見ない抜本改修を実施。最先端の音響学の知見に基づいて、一流の音楽ホール音響と、講演の音声も明瞭に聴き取れる良好な音空間環境という、一般には両立が困難な要件の両立が図られています。





## ② 千貫沢土橋の石垣

本学の川内キャンパスは、ほぼ全域が江戸時代の仙台北二の丸と周辺の武家屋敷に相当し、遺跡として登録されています。写真の千貫沢土橋の石垣は、川内南キャンパスに北側から入る道路が沢を渡るところにあり、二の丸造営時に土橋で沢が遮られ堀が造られたことが分かる遺構です。

このほか近世から近代の遺構として、北側から川内南キャンパスに向かって渡る道路の直下には、千貫沢土橋の石垣があります。仙台北二の丸造営時に土橋で沢がさえぎられ堀が造られましたが、この土橋の東側に近代以降に築かれた石垣が残っています。またキャンパス内には、アメリカ軍のキャンプ地であった頃の消火栓が当時の歴史を示すものとして現在も点在しています。

東北大学のキャンパスとなつてから、建物以外に整備されたものとしては、中善並木、三太郎の小径があげられます。中善並木は、民法学者であった中川善之助法学部教授の退官時（1961年）に、学生との交流を記念するものとして整備されたもので、川内南キャンパスの景観を象徴する桜並木となっています。三太郎の小径は哲学者・美学者であった阿部次郎（※）法文学部教授生誕百年を記念し、仙台市と協力して1987年に開通されました。川内萩ホルの北側を回遊し、思索を楽しむのに適した散歩道です。このように、川内キャンパスには様々な遺構や文教ゾーンとしての景観が形成されており、このエリアが歩んできた重層的な歴史を体感することが出来ます。

※ 阿部次郎（1883～1959）…本誌12～13頁に  
関連記事あり。



## ③ 三太郎の小径

川内キャンパスの本学附属図書館向かいから、弓道部の部室横を通って記念講堂の外側を周遊するかたちで支倉常長像を経由。仙台市博物館の前庭に至り、キャンパスに戻って中善並木を通して図書館入り口付近に帰る約4キロメートルの回遊路が「三太郎の小径」です。散歩好きだった阿部次郎氏の代表作『三太郎の日記』にちなんで名付けられたもので、ドイツのハイデルベルクの「哲学者の道」や京都の「哲学の道」を意識して、構想されたといわれています。





#### なかぜんなみ き ④ 中善並木

川内萩ホールと附属図書館および文系4学部の間を南北に貫く道路。「中善並木」は1961年3月に退官した「中善教授」と中川善之助法学部教授(当時)と学生たちとの深く親しい交流を記念して命名。そのいきさつは道路沿いの案内板に詳述されていますが、大要次のとおりです。1960年、大学祭に焼き鳥屋を出す企画を立てた学生たちがいました。しかし、「焼き鳥屋は大学祭にふさわしくない」として大学祭実行委員会の許可が出ませんでした。困り果てた学生たちが、中川教授なら自分たちの気持ちを理解してくれるに違いない、と頼みこんだところ、中川教授は「焼き鳥屋のおやじ」になることを快諾。中川教授の登場で出店が認められ、「法一亭」と名付けられたその焼き鳥屋は、結果的にかなりの収益が出るほど盛況になったといいます。収益の用途を検討した学生たちは、翌年中川教授が定年となることを知り、その記念にキャンパスの緑化の一環として並木を作ることを計画。計画に賛同した卒業生たちからの賛助金も集まったことから、青春時代の思い出を作ってくれた教授への感謝の気持ちも込めて、桜の苗木を植えた——これが「中善並木」のいわれです。毎年春には見事な桜並木となります。



#### ⑤ 中善並木の記念碑

中川教授は並木に自身の名をつけることを固辞されたが、学生の熱意をくんで承諾されたといわれています。そして記念碑には「若き日の友情と感激のために」と記されています。



#### キャンプ地の名残の消火栓

川内キャンパス内には、アメリカ軍のキャンプ地であった頃の消火栓が使われないまま、現在も点在しています。





# Topics — Creating Global Excellence

## トピックス ● その先の卓越へ。

東北大学における「教育」「研究」「社会との共創」の好循環構築に向けた動きをお届けします。

### 内堀福島県知事の 白熱教室@東北大学 『FUKUSHIMAの未来』を開催

2022年7月11日、東北大学グリーン未来創造機構は、川内キャンパスで福島県の内堀雅雄知事を講師に迎え、「FUKUSHIMAの未来」と題された特別講義を開催しました。特別講義には、事前申込のあった約100人の本学の学生が対面参加しました。

前半は福島県の復興の現状と未来について、内堀知事と本学学生による白熱教室が行われました。白熱教室の中で内堀知事は、未来を切り開くキーワードとして「希望」「危機」「挑戦」の三つを掲げ、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に加え、台風被害や新型コロナウイルス感染症への対応など、度重なる「危機」を「希望」に変えるためには様々な「挑戦」をしなければならぬことを力強く訴えました。

後半は「学生の力を活用した新生ふくしまの実現に向けて」をテーマに、内堀知事とグリーン未来創造機構長の佐々木啓一理事による対談が行われ、その後、学生を交えた活発な質疑応答が行われました。

当日の講義、対談の様子についてはYouTubeで動画配信しております。QRコードからご覧ください。



講演中の内堀知事

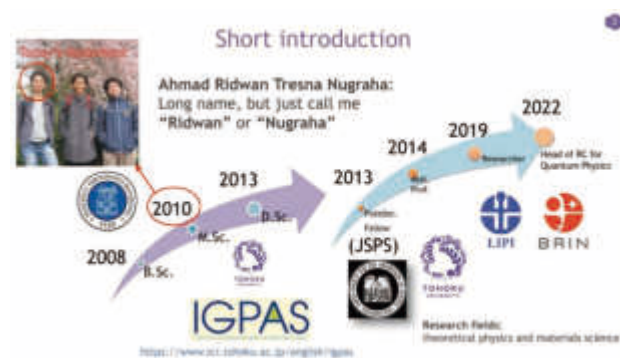
### インドネシア同窓会が 本学創立115周年を記念し オンラインセミナー

2022年5月28日、東北大学創立115周年を記念して、本学インドネシア同窓会と現在本学に在籍するインドネシア人留学生の企画・主催によるオンラインセミナー「Let's Study at Tohoku University」が開催されました。

本セミナーでは、本学の留学プログラムや奨学金情報、卒業後のキャリアなどの紹介が行われ、222人のインドネシアの高校生らが参加。

同窓会長のインドネシア大学のスリ・ハルジャント教授とハル・オレオ大学のムハンマド・ザムルン・フィリフ学長が挨拶。大野英男総長によるビデオメッセージでは、本学の建学の理念や地球規模の課題に関する最新の取組が紹介され、留学生の夢をかなえるための舞台を用意する旨、歓迎の意が伝えられました。

また、本学グローバルラーニングセンターから留学生受け入れプログラムの紹介、在インドネシア日本国総領事館から政府奨学金に関する説明があり、在学生や同窓生から各々の経験に基づいた奨学金制度や本学の研究環境に関する紹介が行われました。セミナーの参加者からも熱心な質問が寄せられ、盛況のうちに終了しました。



本学同窓生による卒業後のキャリア紹介の画面

## ボートの魅力を

多くの人に伝えたいと思います。

どんな状況でも諦めず愚直に努力 ● 学友会漕艇部 主務  
経済学部 経済学科 4年 小松 香於里 KOMATSU Kaori

かつてローマオリンピック出場を果たした東北大漕艇部は、  
伝統と誇りと感謝を胸に、夢中になってボートに取り組む。

今年度（2022年度）は25名の  
新入部員を加え、総勢91名の体制で  
全日本大学選手権の対校エイト優勝、  
全艇決勝進出を目標に日々練習に励  
んでいます。

東日本大震災から10年目の昨年新  
設した「岩沼艇庫」（宮城県岩沼市  
貞山堀）をはじめ、「釜房艇庫」（宮  
城県川崎町釜房湖）、「戸田艇庫」（埼  
玉県戸田市戸田ボートコース）と三つ  
の艇庫を構え、大学・OB・OG・地  
方自治体など多方面からの多大なる  
ご支援をいただきながら恵まれた環境  
で練習ができるのは、大変幸せなこと  
と感じています。

今年10月には旧制二高時代から続  
く学内レガッタ『海上運動会』を開  
催します。ボートの魅力を多くのに  
に伝えたいと思います。

東日本大震災の教訓から、学生主  
体となつて防災マニュアルを作成し、練  
習体制を整えました。

今後は部外へも貞山堀利用を拡大  
し、地域のシンボルになりたいと考え

ています。

コロナ禍においては、これまで築いて  
きた部外とのつながり、先輩・大学  
からの支援、新艇庫完成により生ま  
れた素敵な関係が部を強く支えてく  
れました。

どんな状況でも諦めず、目標に向  
かつて愚直に努力する部員の姿が、多  
くの方の心に響いたのだと思います。  
応援は選手の大きな力となります。  
既存の関係を大切にしながら、さら  
に応援の輪を広げていきたいです。

活動資金のほとんどが先輩方のご寄  
付により成り立っています。漕艇部を  
応援し、支え続けてくださる先輩方  
には感謝しかありません。今、私た  
ちが夢中になってボートに取り組める  
のは、旧制二高端艇部誕生以来、1  
27年続く先輩方の実績と努力のお  
かげです。

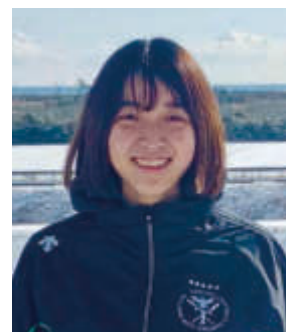
ローマオリンピック出場を果たした東  
北大漕艇部がいつの時代も強くあり続  
けられるよう、全部員精進していま  
います。



2021年10月：全日本大学選手権  
【女子クオッド】3位（戸田漕艇場）



2021年10月：第48回全日本大学選手権  
【男子ペア】2位（戸田漕艇場）



漕艇部主務の小松香於里さん



2022年5月：第100回全日本選手権  
【女子シングルスカル】Final Bで1着の中川奈穂選手  
（東京都江東区・海の森水上競技場）



2019年7月：第63回東北大・北海道大学漕艇定期戦  
【新人エイト】勝利の瞬間（北海道茨戸川漕艇場）



東北大学漕艇部

▶ <https://tohoku-rowing.com>



## 「総合大会復活」と「ニューノーマル大会」という二つのテーマを掲げています。

総合大会として3年ぶりに開催 ● 第61回全国七大学総合体育大会 実行委員長  
理学部 数学科 4年 村上 幸大 MURAKAMI Kodai  
主管校としての責務を担う村上実行委員長の思いは熱く、  
残る全ての正式競技種目の開催を目指す。

今年度の第61回大会は本学が主管

で、私が1年生だった2019年度の第58回大会以来、総合大会として3年ぶりの開催です。新型コロナウイルス感染拡大で、2年連続中止となり、今回開催できなければ実行委員会や各競技種目において運営の経験者がいなくなるという危機感がありました。既に半数以上の競技種目が終了し、7月2日川内萩ホールで開会式を挙行ができたため少し安堵していますが、予断を許しません。

実行委員会として「総合大会復活」と「ニューノーマル大会」という二つのテーマを掲げています。七大会が総合大会として開催されることは、非常に大きな意義を持っています。既に複数の競技種目が中止となりましたが、残る全ての種目が開催できることを強く願っております。また、ニューノーマル大会ということで、逆境を克服し、今大会が七大会の更なる発展の起点となるよう、引き続き大会運営に励んで参ります。



開会式に出席した七大学体育会の学生 (2022年7月2日/川内萩ホール)



村上幸大さん

全国七大学総合体育大会

▶ <http://www.7univ-nanadaisen.jp/index.html>

## 第61回七大会は、我々4年生にとつてまさに締めくくりの大一番です。

「心をつなげる」応援を目指して ● 学友会応援団 第60代団長  
教育学部 教育科学科 4年 平山 貴大 HIRAYAMA Takahiro  
七大会での演舞で引退の平山団長は、  
コロナ禍における応援や演舞のあり方を模索し困難を克服。

学友会応援団は、七大会が始まった年の翌年1963年の創団で、60年の歴史があります。現在、リーダー部男子・チアリーダー部女子・吹奏部男女の3パートで57名在籍しています。4年生は七大会での演舞で引退となりますので、今回、3年ぶりの実施となった第61回七大会は、我々4年生にとつてまさに締めくくりの大一番であり、本大会の開催を心から喜ばしく思っております。

コロナ禍の影響で、応援や演舞、練習に至るまで、様々な場面で活動に制約を受けてきました。しかし、歴代の先輩方が団員数の減少など、数々の危機を乗り越えられてきたように、我々もこの困難を乗り越えるため、独自のガイドラインや活動計画書を作成し、コロナ禍における応援や演舞のあり方を模索してきました。

応援を通して生まれる学内外との交流やつながりを大切にし、「心をつなげる」応援を目指し、努力を重ねていこうと考えております。



七大会開会式での演舞 (2022年7月2日/川内萩ホール)



平山貴大さん

学友会応援団

▶ <https://tohokuohen.wixsite.com/tompendan>

## 福島復興は

まだ終わっていません。

実際の見聞を発信！ ●学友会文化部準加盟団体「東北大学復興youth」  
工学部 機械知能・航空工学科 2年 明珍 達也 MYOCHIN Tatsuya  
浜通り地域で学生の力を必要としている場所を探し、  
支援・交流し、記録・発信していく活動はまだまだ続く。

東北大学復興 youth は福島県双葉郡の原発災害避難者と、いわき市の津波被災者の心のケアとコミュニティ形成支援を目的に、2013年3月に発足しました。浜通り地域の公営住宅の住民の方との交流、震災や原発災害を学ぶツアーの企画、そこで得た情報の発信を行っています。

今年度、5月には田植えの手伝いや震災遺構請戸小学校や特定廃棄物埋立情報館「リプルンふくしま」を訪問するスタディツアーを実施。6月には公営住宅で住民同士の交流の場を作るカフェ活動もしました。

福島復興に向け、学生の力を必要としている場所は今もなおあると思われます。そういった場所に新たにボランティアとして入ることに加え、実際に聞き取ったことや事業で得た知見を情報誌や映像に収め、発信していきたいと思っています。福島復興はまだ終わっていません。少しでも多くの人々が福島を訪れることによって、復興が進むと私たちは信じています。



2022年6月19日、福島県いわき市の下神白団地におけるカフェ活動の様子



明珍達也さん

東北大学復興youth  
▶ <https://fukko-youth.tumblr.com>

「能動的であれ！」を旗印に、  
双葉から世界を動かしていく。

ローカルでグローバル ●任意団体「Rurio(ルリヲ)」  
工学部 機械知能・航空工学科 4年 小林 雅幸 KOBAYASHI Masayuki  
星空観賞会や早朝ヨガなど、だれでも気軽に楽しめるツアーを通して、  
持続可能な関係人口を生み出す「パレットキャンプ」の試み。

Rurio は東北大学の学生を中心に、世界中から集まった志ある人々で構成される任意団体です。

私達は福島県双葉町を、「被災地」ではなく「人類最後のフロンティア」と捉えています。町の復興へ寄与することを通して、既存の社会システムそのものに変革をもたらすことを目標に、起業を視野に活動中です。

私達は、星空観賞会や早朝ヨガなど、誰でも気軽に楽しめるツアーを通して、持続可能な関係人口を生み出す「パレットキャンプ」というツアーを運営しています。昨年は、支援を受けて2回実施し、今年の5月には独自開催に成功しました。ツアーは一度で終わらせず、7月からは過去の参加者と交えた事業も開始しています。

ツアーと事業参加者の約4割が外国籍で、その国籍は15以上。ローカルでグローバルなところがRurioの大きな特色です。

「能動的であれ！」を旗印に、私達は双葉から世界を動かしていきます。



2021年11月パレットキャンプ開催時の集合写真。双葉駅周辺の壁画アート前で(撮影：及川裕喜)



小林雅幸さん

Rurio  
▶ <https://www.rurio.jp>



## 東北大学萩友会

つながるチカラを、もっと、ずっと。

### ▶ 東北大学萩友会とは

東北大学萩友会は、卒業生、在校生、教職員、在校生のご家族など、東北大学の関係者や東北大学を応援してくださる皆さんを会員とし、会員相互の親睦と交流を支援し、世代や地域を超えた「東北大学コミュニティ」の発展を目的とする校友会組織です。

### ▶ 主な年間行事

萩友会では、「ホームカミングデー」「東北大学懇談会」「各地区での交流会・同窓会」など、皆様にお楽しみいただける様々なイベントを開催しております。

今年の東北大学115周年ホームカミングデーの開催日は、10月1日・2日の2日間です。メインプログラムでは、川内キャンパス東北大学百周年記念会館川内萩ホールを会場に、創立115周年・総合大学100周年を記念した「記念式典・記念祭」を行います。また、関連プログラムとして、宮城県の人気菓子店が大学内で栽培したブルーベリーを利用して作り上げた限定スイーツや、東北大学の周年記念グッズを購入できる「KIZUNAスイーツタウン」のほか、校友の皆様から幹事を募集し、好きなテーマ毎にオンラインで親睦交流を深めていただく「オンライン交流会」など様々な企画を実施いたします。

### ▶ 学生生活まると応援!

萩友会では、「学生生活まると応援!」をコンセプトに、同窓生ネットワークを通じて、学生の衣食住など多面的なサポートをしております。2021年に引き続き、今年も「学生応援100円朝食サービス」を実施します。第1弾は、一般財団法人田中貴金属記念財団様からのご寄附ならびに本学同窓生組織である群馬萩友会様からの群馬県産三元豚のご寄附を基に、豚の生姜焼き定食をはじめとする日替わりメニューを、10日にわたり100円で提供しました。学内外から好評をいただいております、支援の輪が広がっております。



ホームカミングデーの様子



100円朝食メニューの一例

### 東北大学や同窓会の情報発信

東北大学メールマガジン(月1回配信)、萩友会公式SNSで最新情報やイベント情報を配信しています。ぜひご登録ください。



配信申し込み



お友だち登録



フォロー



チャンネル登録



### 東北大学萩友会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 TEL:022-217-5059 FAX:022-217-5910  
Eメール: alumni@grp.tohoku.ac.jp

東北大学萩友会

検索

<https://shuyukai-tohoku-u.net>



## 東北大学基金

### 東北大学創立115周年・総合大学100周年記念事業「東北大学基金グリーンマイルストーン」のご案内



### ともに挑み、ともに育む未来のために

本学は2022年に創立115周年、また法文学部が設置され総合大学としての歩みを始めて100年の節目を迎えました。

この転換期となる創立115周年の節目に、これまで培ってきた資産を未来へと継承し、世界を先導する研究教育の持続的発展を実現していくため、今後の東北大学基金の拡充目標を定めました。豊かで持続可能な未来社会を実現するため、皆様からのご支援をお願いいたします。

#### 〈東北大学基金 目標金額マイルストーン〉



#### 〈使途〉

##### 重点施策① 総合知の輪を世界へ・未来へ

- 世界的視野で時代を先導するリーダー人材の育成
- グローバルネットワークの更なる強化
- ダイバーシティ研究環境の実現
- 歴史的資産の保存・継承・社会との共有

詳細はQRコードから  
ご覧いただけます。



##### 重点施策② グリーン未来社会の実現に向けた教育・研究

#### 教育

グリーン・SDGs人材の育成

#### 研究

グリーンテクノロジー3重点領域の推進



#### 社会との共創

産学官連携によるレジリエント社会の実現

#### カーボンフリー化

2040年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ

### 東北大学基金

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 TEL:022-217-5058・5905 FAX:022-217-5910  
Eメール: kikin@grp.tohoku.ac.jp

東北大学基金

検索

<https://www.kikin.tohoku.ac.jp/>



## 東北大学学友会

### ▶ 185団体に延べ8千人が所属

東北大学学友会は、学生の皆さんが大学の学問以外に、文化、体育などに関する自発的な活動を行うための全学的な組織であり、今年で101周年を迎えました。

学友会は、本学の学生及び教職員全員で組織されており、会員の支援により運営をしています。主な事業として、新入生歓迎会や大学祭などの行事支援、課外活動の援助、レクリエーション時のスポーツ用具貸出などを行っております。

本学は、社会性、自主性、協調性、リーダーシップの育成および心身の健康と増進を図るため、課外活動への参加を奨励しています。学生の皆さんが積極的に学友会の行事や各自好きなサークル活動に参加し、楽しみつつ、豊かな教養を身につけていくことを期待しています。

現在、学友会に所属する185団体に延べ8千人の学生の皆さんが加入し、様々な分野・競技大会などで成果を達成しております。新型コロナウイルス感染症の影響による制限は緩和され、コロナ禍前とほぼ同様の活動をしてありますが、各学友会所属団体は、その競技などに応じた感染防止対策を策定し、活動を行っております。



柔道部集合写真

### ▶ 学生文化の華として[大学祭の開催]

10月28日(金)～30日(日)の3日間、「第74回東北大学祭」が開催されます。開催にあたっては、本学学生で構成される大学祭実行委員会が企画運営を担い、川内キャンパスが主会場となります。

屋根付きの大ステージや各種模擬店、各サークルによる教室企画などが行われます。本学学生の普段の活動の発表の場としてはもちろん、大学(キャンパス)という空間を生かした非日常な3日間を過ごすことができる内容になっています。

大学祭は伝統ある東北大学の「学生文化の華」として毎年継承されてきました。昨年度は、コロナ禍で来場者を学内限定とし、飲食物の提供を行わないなどの感染拡大防止対策を施しながらの実施でした。

今年度の大学祭テーマは、「轟・TODOROKI-」とし、消えかけた学生文化再興の次なるステージとして、大学祭、ひいては東北大生の学生文化を世に「轟」かせることに大きな意義を見出し、それを実現できる大学祭を目指しています。また、大学祭のテーマのもと、当実行委員会の活動方針として「大学祭文化の伝承と進化」を掲げています。もちろん感染拡大防止対策は行いながら、コロナ禍前の制限のない「完全対面開催」を目指し、クオリティーが高く来場者の皆様に喜んでもらえる大学祭を目標に、我々、実行委員会メンバー全員が奮闘しております。

ぜひ、今年度の新しい大学祭にご期待ください。



第73回東北大学祭ステージ(2021年度)



第74回東北大学祭「轟」のロゴマーク

この『まなびの杜』は、インターネットでもご覧になれます。

まなびの杜

検索

●『まなびの杜』をご希望の方は各キャンパス(片平、川内、青葉山、星陵)の警務員室、附属図書館、総合学術博物館、植物園、病院の待合室などで手に入れることができますので、ご利用ください。

●本書の内容の一部または全部の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)は、法律で定められた場合を除き、著作権および出版権の侵害になりますので、その場合はあらかじめ発行者宛に許諾を求めてください。

●『まなびの杜』編集委員会委員(五十音順)  
伊藤 彰則/大隅 典子(委員長)/加藤 諭/佐倉 由泰/  
田邊 いづみ/溝部 鈴/村松 淳司/渡辺 政隆

●『まなびの杜』に対するご意見などは、手紙、ファクシミリ、電子メールでお寄せください。

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1

TEL: 022-217-4977 FAX: 022-217-4818

Eメール: koho@grp.tohoku.ac.jp



表紙について

編集  
後記

表紙の写真は、東北大学片平キャンパスにある「東北帝国大学理科大学 創設の地 記念碑」(1968年建立)です。本学は1907年に設置され、東北帝国大学理科大学と札幌の農科大学を源流とする大学ですが、1911年に建てられた理科大学の建物は、実業家・古河虎之助氏から創立費の寄贈を受けて建設されました。写真の記念碑には、当時の建物が1945年の仙台空襲で崩壊した際に残った赤レンガが用いられています。また、屋根の装飾金具が記念碑の中央に配置されているなど、本学115年の歴史の原点を象徴するモニュメントであるといえます。

今年は、東北大学の創設から115周年、法文学部が設置され、文系・理系を擁する総合大学となってから100周年に当たります。その歴史の中で継承されて育まれてきた「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」の理念のもと、未来に向け東北大学がどうあるべきか、本号では周年であることに着目し特集を組みました。思い起こせば創立50周年は、川内青葉山地区の移管が大詰めを迎えていた時期であり、21世紀に入り国立大学法人の船出を切って間もない中で創立100周年がありました。後年この2022年も大きな激動の年であったと記憶されていくことでしょう。今号をご読覧頂き、大学の来し方行く末に思いを馳せて頂く機会になればと思います。(加藤諭)

Check! 東北大学公式HP、SNSにて最新ニュースを配信中!

東北大学では、日本語版・英語版の公式HPとSNS(Twitter, Facebook, Instagram, YouTube公式チャンネル)を運営しており、様々な最新情報を発信しています。





まなびの杜 MANABI NO MORI  
VOL.92

2022年10月1日発行 編集：東北大学「まなびの杜」編集委員会 発行者：東北大学総務企画部広報室  
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1 電話 022-217-4977 FAX 022-217-4818  
<https://www.tohoku.ac.jp/> © TOHOKU UNIVERSITY 2022 Printed in Japan



東北大学